

公益財団法人長寿科学振興財団
令和5年度長寿科学研究者支援事業「長生きを喜べる長寿社会実現研究支援」
公募説明会質疑応答議事録（5月18日開催分）

1. 事前質問回答

質問1：

国内外に渡っての研究計画は可能でしょうか？

回答1：

国内外に渡っての研究計画は可能です。

質問2：

A,Bステージの助成率を教えてください。

回答2：

A,Bステージの助成率は設けておりません。

質問3：

2021年度の募集との違い、21年度の応募結果の確認法、21年度採択課題の詳細・進捗・22年度募集との関係について教えてください。

回答3：

- 2021年度の募集との違いはありません。
- 応募結果については提案者にメールおよび通知文書を郵送にてお知らせします。
- 2021年度の採択プロジェクトについては財団ホームページで公開しております。

質問4：

本事業によって得られた知的財産の所属については採択された案件ごとに判断ということになりますが、大まかなガイドラインだけでもお示し頂けますでしょうか？

回答4：

知的財産の帰属につきましては、公募要領17ページ(3) 知的財産の取り扱いについて記載していますとおり、採択案件ごとに協議のうえ決定します。

質問5：

Bでいう「開発された課題解決方法」とはどの程度のレベルまで達しているイメージなのかをもう少し詳しく知りたいです。

回答5：

対象者に対し課題解決方法を実験的に実装・検証を進められるレベルを求めています。

質問6：

サプリメント開発などは対応可能でしょうか？

回答6：

本事業は主課題を実現するための課題解決となるものであれば、提案の内容を制限するものではありません。

質問 7 :

応募に際して所属する団体の長の承認とありますが、大学の場合は学部長等でも可能でしょうか。

回答 7 :

提案者が所属する組織としてプロジェクトを実施することを承認できるお立場であれば「総長（学長）」の他、「学部長」、「研究科長」、「病院長」など部局長でも構いません。

質問 8 :

探索研究、実装研究、社会実装の流れについて、規模感を確認させてください。

当方としては、ある自治体(岡山市)の取り組みをベースにテーマに向けたシステム探索をしていき、県域への展開をも見据え、市レベル、中山間地域自治体をモデルにし、その課題と地域性を勘案しても成り立つシステム造りが A ステージであると理解しています。実装ステージは、このシステムを実際に自治体・民間が住民の生活支援の中で活用し、ステークホルダーの役割分担が明確になり自治体としての実装評価・報告が出来る状態と考えています。社会実装は、自立が確認できることがポイントで、展開は、本システムの県域、瀬戸内海全域の自治体への水平展開と考えています。この流れでよいでしょうか。

回答 8 :

流れ、規模感について問題ないと思います。

質問 9 :

当方の組織からの申請をし、産学官でテーマに取り組みますが、このような体制でよろしいでしょうか。

回答 9 :

提案者の要件を満たしていれば、産学官の体制でテーマを組むことに問題はありません。

質問 10 :

いくつかの関連ある活動をパッケージに出来たらと考えております。全体として見れば探索研究ステージかもしれませんが、個別には実装研究の領域に入るものが出てくる可能性があります。その場合はどのステージを選択すれば良いでしょうか。

回答 10 :

プロジェクト全体の構想を実現するのに最適なステージを選択ください。

2. 質疑応答分**質問 1 :**

共同プロジェクトグループは複数でもいいのですか？また外国の団体でも問題ないですか？

回答 1 :

プロジェクトリーダーが構想するプロジェクトの目標の実現に必要な共同プロジェクトグループの設置数、および国内・海外など所在地の制限はありません。

質問 2 :

事業は利益を上げる必要はありますか？

回答 2 :

本事業は財団からの助成・支援が終了後も持続可能な形でプロジェクトが自走できることを求めています。そのため、プロジェクトを持続可能な形で自走するために事業利益を上げる必要があるのであれば、そのためにどうするのかといったことを提案内容に記載ください。

質問 3 :

プロジェクトチームは一般市民との双方向のコミュニケーションを生み出す機能を有することという条件がありますが、具体的にはどのような機能でしょうか？具体例をお教えてください

回答 3 :

サイエンスコミュニケーターに類似する方を想定しております。

サイエンスコミュニケーター（または科学コミュニケーター）とは：国民と政策担当者や研究者との橋渡しを行い、研究活動や得られた成果等を分かりやすく国民に伝える役割です。

■参考資料

[今後の科学コミュニケーションのあり方について（平成 31 年 2 月 8 日 科学技術社会連携委員会）](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/092/houkoku/__icsFiles/afieldfile/2019/03/14/1413643_1.pdf)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/092/houkoku/__icsFiles/afieldfile/2019/03/14/1413643_1.pdf

質問 4 :

「経理実務経験 3 年以上程度」の経理責任者は、採択されたときに経験者を新規採用してもいいのですか？ それとも応募の段階で経理責任者を任命しておかなければならないのですか？

回答 4 :

採択されたときに経理責任者を新規採用しても問題ありません。提案の段階で任命が難しい場合は、提案書に経理責任者についてどうするのか予定等を記載ください。採択された場合、プロジェクトが開始するまでにはプロジェクトチームに経理実務経験 3 年以上程度を有する経理責任者が所属するようにしてください。

質問 5 :

学生の参加は可能でしょうか？

回答 5 :

プロジェクトに学生が参加いただいても構いません。学生が本事業に提案するというのであれば、提案者の要件を満たすことが求められます。

質問 6 :

ビジネスモデルキャンパスに書く目標は D ステージのものとのこと。5 の資金計画も D ステージなのではないでしょうか？ A ステージで申請する段階では難しいように思います。9 のコストも同様に確認したいです。

回答 6 :

本事業にご提案いただくプロジェクトは D ステージ：展開までを見据えた構想・目標を求めています。プロジェクトで達成したい目標や事柄については D ステージ：展開までを計画ください。なお、A ステージから申請する場合のコストについては A および B ステージのコストは具体的に

示してください。C ステージ以降の資金計画については考えられる範囲で提案書に記載ください。

質問 7 :

これから、さらに3回の説明会がございますが、今回と同様の内容でしょうか。そして、今回の質疑応答などは後で確認できますでしょうか。

回答 7 :

説明会の内容は5月18日に行った説明会と同様に公募説明動画をご覧いただいたのち、質疑応答を行います。また、質疑応答については議事録としてメールマガジンおよび財団ホームページのFAQにて情報共有いたします。

質問 8 :

現在の法人の他に、新たな法人を立ち上げようと考えています。手続きに半年くらいかかる可能性があります。申請時に法人化されている必要がありますか？

回答 8 :

提案者は国内の法人格を有する団体に所属していることを要件で求めています。そのため、本事業においては個人からのご提案は受け付けておりません。なお、申請時において提案者が新たに立ち上げる団体に所属を予定し、提案する場合はその旨提案書に記載ください。

質問 9 :

採択件数はそれぞれのステージで0~2件ですか。ステージでの採択数の偏りはないのでしょうか。

回答 9 :

本公募はステージ毎で採択件数を設けておりません。主課題である「長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす」に対し提案いただくプロジェクトについて、①社会的インパクトがあるか②持続的かつ実効性があるか③学際的であるか、といった観点で審査評価委員会が審査し採択を決定します。

質問 10 :

申請書類作成途中での質問などは「問い合わせ」欄の連絡先でよろしいでしょうか？

回答 10 :

本事業の内容や、提案書の作成・提出に関する手続きなどに関するお問合せについてはお問合せページにて受け付けます。お電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。

なお、お問合せページに投稿された内容はメールにて回答します。また、類似のお問合せ等に対する回答は当財団が発行するメールマガジンでお知らせするとともに公募要領掲載ページにおいてFAQを公開します。

●お問合せページ (Google フォーム)

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSef4lpTvHdajCORixdKIIQpLjHnnXdfpfkli9LXZ_JDZYcdRA/viewform

●長生きを喜べる長寿社会実現研究支援に関する FAQ

<https://www.tyojyu.or.jp/zaidan/about-jigyo/koueki1/faq.html>